

はじめに

(1) 本手引きの目的

外国人も含め多くの観光客(※)が訪れる富士河口湖町においては、大規模地震や噴火などの自然災害が発生した場合、地域住民のみならず、観光客等の安全確保や避難等についても対応が必要となります。

地域住民と観光客の大きな違いは、観光客はその地域の土地勘がほとんどない上に、その地での過去の災害経験なく、事前の避難訓練もできないため、対処の方法が分からないことがあげられます。もう一つの違いは帰宅支援の必要性です。交通状況等に関する情報提供を行うとともに、公共交通が寸断し、帰宅が困難な場合には、一時的に観光客を地域で収容することも必要になります。そのため、大規模災害の発生を想定した場合、観光客の安全確保や避難、帰宅支援を円滑に行うためには、以下のようなルールや役割分担を事前に定めておくことが重要となります。

◆地域住民と観光客の違い

【地域住民（勤務者）】	【観光客】
<ul style="list-style-type: none">・土地勘があり、避難すべき場所や方向がわかる・周囲に知っている人がいる・避難訓練が可能・コミュニケーションに問題はない・できるだけ早く元通りの生活に戻りたい	<ul style="list-style-type: none">・土地に馴染みがない、土地勘がない・周囲に知っている人がいない・事前の避難訓練ができない・外国人観光客はコミュニケーションが難しい・できるだけ早く自宅・自国に帰りたい



【必要な対応策】

- ◆ 観光客の避難・誘導に関する具体的なルールと役割分担の確立
- ◆ 観光関係者間の情報伝達方法（報告・指示系統）の確立
- ◆ 帰宅困難観光客の収容施設の確保
- ◆ 収容施設での観光客に対するサポート体制・役割分担の確立
- ◆ 帰宅支援策と役割分担の確立 等

本手引きでは、上記に示した観光防災に関する対応方針を定めることで、実際に災害が発生した際にスムーズな対応をとれるようにすることを目的としています。

安心・安全な観光地であることは、観光地としてのブランド力・競争力を高めます。本町で被災した観光客から「大変な目に遭ったけど、それが富士河口湖町だったから無事に家に戻れた、富士河口湖町は安全・安心な観光地だ」と言ってもらえるような対応を取れるよう準備することが本手引きの大きな“ねらい”です。

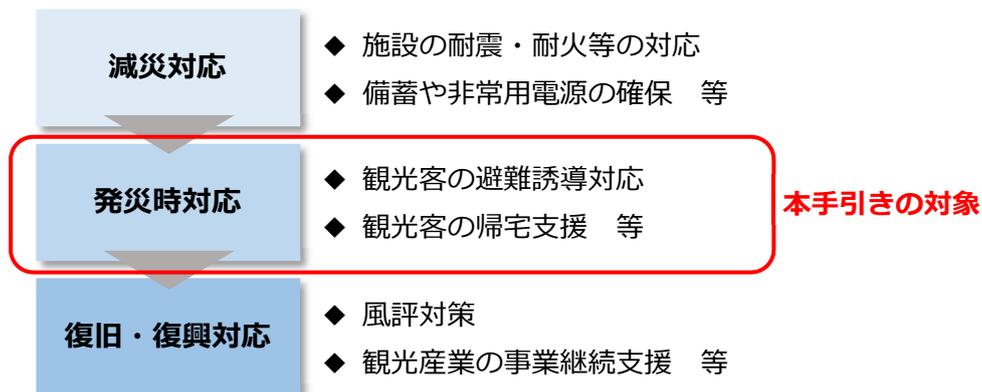
※本手引きでの「観光客」には、ビジネス目的等での来町者も含めます。

(2) 本手引きで想定する「観光防災対応の段階」と「災害の種類」

<観光防災対応の段階>

観光防災の対応は、施設の耐震・耐火や備蓄や非常用電源の確保など、被害を最小限に抑えるための事前の「減災対応」、災害が発生した際の観光客の避難・誘導や帰宅支援等の「発災時対応」、および風評対策や観光産業の事業継続支援といった「復旧・復興対応」の3つの段階に分けて考えることができます。

本手引きは、この3つの段階の中で特に「発災時対応」の方針を定めています。



<想定する災害の種類>

観光防災を考える上で対象となる災害には、大きく火災や事故等の「人為的災害」と噴火や地震、台風等の「自然災害」がありますが、前者については局所的な場合がほとんどであり、管理を徹底することで防止することも可能です。一方、自然災害は発生を防ぐことは困難であり、町全体が被害を受ける可能性があります。

また、噴火や大雨・台風、大雪等の災害は、ある程度災害の発生が予測できる、または観光的にオフシーズンであるため、帰宅困難となる観光客の発生は比較的小規模となることが想定されますが、大規模な地震が観光シーズンの日中に発生した場合、大勢の観光客が帰宅困難となり、大きな混乱を生じることが予想されます。

観光防災にあたっては、最大リスクを想定することで「想定外」を減らすことが重要となることから、本手引きでは、震度7クラスの地震が観光シーズンの日中に発生することを想定し、各種対応のあり方について整理しています。

